



1

病院に行っても、 くすりがもらえない 時代がやってくる？

風邪をひいたら病院に行って、処方箋を
だしてもらおう。そんな当たり前の
ことができなくなる未来が来るかも
もしれないことを知っていますか？

いま、どんなくすりが不足しているのでしょうか。

実は、一部の解熱鎮痛剤、せき止め薬、胃薬、抗菌薬
など私たちの身近にある幅広いくすりに影響が
でています。

また医療先進国のイメージが
ある日本ですが、海外では承認
されている新しくすりが使え
なかったり（ドラッグロス）、
使えるようになるまでに
時間がかかる（ドラッグラグ）と
いう問題が起こっています。

小児がんなど、
希少性の高い病気の人にとっては
命に関わる事態です。
どうしてそんなことに
なってしまっているのでしょうか。



check point

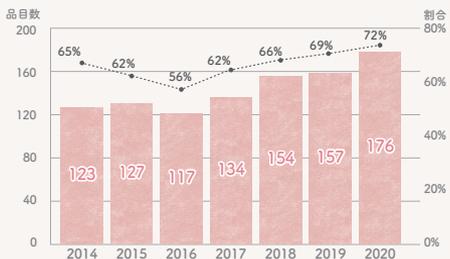
ドラッグラグと ドラッグロス

ドラッグラグは、海外で使われている
治療薬が、日本で承認されるまでに長
い年月がかかる問題のこと。

ドラッグロスは、さらに深刻。海外です
でに使われている治療薬が日本では
開発が行われず、日本で使うことがで
きない状況のこと。

国内未承認薬数の推移

未承認薬の数は一時減ったものもま
た増えてきている。



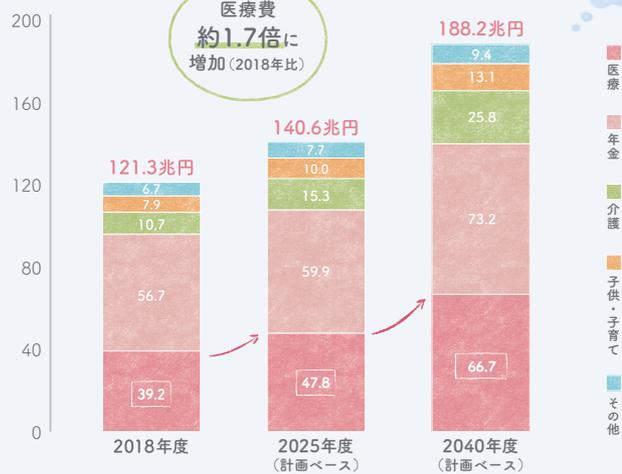
注1：各年の品目数は調査時点における直近5年の国内未承認薬数
注2：国内未承認薬の割合＝国内未承認薬合計（直近5年）/欧米NIME合計（直近5年）
出所：PMDA, FDA, EMAの各公開情報をもとに医薬産業政策研究所にて作成
出典：医薬産業政策研究所「ドラッグ・ラグ/国内未承認薬の状況と特徴」
政策研ニュース No.63(2021年07月)





将来の医療費の推移

(単位：兆円)



※医療は、地域医療構想及び第3期医療費適正化計画、介護は第7期介護保険事業計画を基礎とした
 出典：上記グラフは、平成30年5月21日内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省
 「2040年を見据えた社会保障の将来見通し(議論の素材)」中の数値データをもとに、当社で作成



新しい薬が生まれるまで

生まれる確率
約23,000分の1

かかる時間
約10年以上

かかる費用
数百億円以上

check point



その結果、
 薬の研究開発や治験、製造などを行
 うための十分な費用が
 確保できなくなってきました。

しかし、高齢化などによる医療費増大が進む中
 私たちが安心して生活していくために必要な
 社会保障費(医療、年金、福祉、介護など)も右肩上がり。

世界では珍しい、日本の国民皆保険。
 だれもがかかる風邪だけでなく、予期せずかかってし
 まうがん等の深刻な病気の時にも、安心して治療を
 受けることができる大切な制度です。

column

2
 医療も、
 限りがあるもの。



3

すべての人に
必要な医療を
届けたい。



これまで、様々な薬が開発され昔は治療が難しかった病気も症状のコントロールや治療が出来るようになり、人々の暮らしは豊かなものになりました。

一方で、まだ治せない深刻な病気を抱え、治療法を待ち望んでいる患者さんもいらっしゃいます。

もしもあなたや大切な人が、治せない病気にかかってしまったら、どのようなことを想像しますか。

この先も、新たな治療の選択肢という希望の光を必要の人に届けるためには、医療資源には限りがあることを理解して、それを大切に使うことがかせません。

これからもすべての人が安心して医療を受けられる社会を守るために

私たちにできることを考えてみませんか？

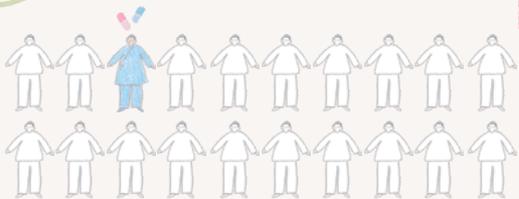
希少疾患・難病の種類の数
約10,000種類¹⁾



希少疾患の影響を
受けている日本の総患者数

推定600万人²⁾

20名に
1人がいる
計算



¹⁾Public Health Challenges of Rare Diseases. <https://rarediseases.info.nih.gov/>

²⁾誰も置き去りにしない希少疾患に対する世界的な課題に対処するための政策方針 (jpma.or.jp) https://www.jpma.or.jp/globalhealth/status_effort/2018/lofurc0000002tc7-att/2018_02.pdf



医療のエコ活動ってどんな取り組み？

一人ひとりが
防げる病気を
防ごう

一次予防
疾病予防

二次予防
重症化予防

一人ひとりが
適切に医療を
利用しよう

すべての人が
もっと健康に

予防から最先端の
治療法を生み出す
サイクルへ

最先端の治療法を
新たな選択肢として
患者さんに

医療資源の利用
軽減
(医療費、医療者の負担など)

同志社大学商学部 瓜生原葉子先生 監修

大切な人が、たとえ予期せず深刻な病気にかかったとしても、安心して必要な医療を受けられる未来を守るために、医療資源を大切に作る「医療のエコ活動」を始めてみませんか？

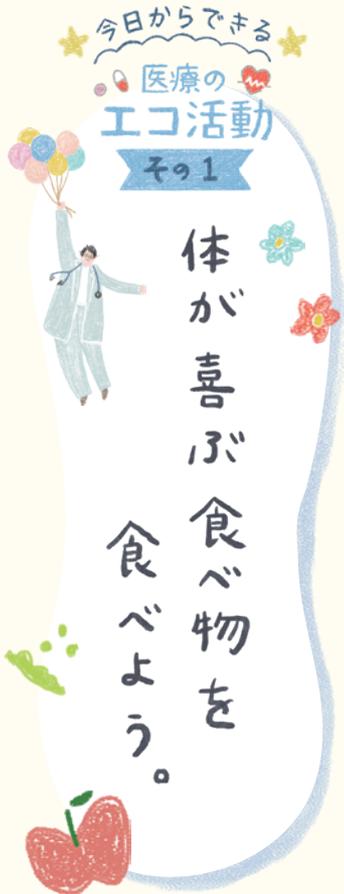
健康を意識した日々の行動が、限りある医療資源を大切にすることにつながります。

column

4

一人一人の心がけが
医療の未来を
明るく照らす

飛たが、できること。



病気になるしない体づくりのために、

体に良い食品を積極的に取り入れましょう。

昔から日本にある食べ物は、

体に優しいものが多いといわれています。

※「ま・ご・わ・や・さ・し・い」を意識して、

今日の食事に1品からはじめてみましょう。



ま…まめ
 ご…ごま
 わ…わかめ
 や…やさい
 さ…さかな
 し…しいたけ
 い…いも

※取り入れることで健康的な食生活を送ることができる食材の頭文字です。

check point

美味しく栄養満点！
 食卓に旬を取り入れよう！

体に良い食事を作りたいけれど、毎日のレシピを考えるのは大変。そんな時は、旬の食材を取り入れることを意識してみましょう！

食べ物の『旬』とは、野菜や魚の出盛り期や食べごろの時期のこと。最近は、品種改良や栽培方法の進化で年中見かける食材も増えてきましたが、旬の食材にはその季節に必要な栄養素が多く含まれているため、とっても健康に良いんです。

たとえばほうれん草の場合、旬の冬にとれたものと夏にとれたものを比べると、ビタミンCの量が約3倍にもなるんです。同じ食材でも栄養価がこんなに変わるので、旬の食材を取り入れることで毎日の食事の栄養バランスも整いますよ！

旬はたくさん出回る時期なので、輸送費などが下がりが自ずと価格も下がりが食卓に取り入れやすくなるのも嬉しいポイント。

体にも家計にも嬉しい旬の食材を毎日の食卓に取り入れて、季節を楽しみながら元気な体を作りましょう！



注「令和元年度(平成31年度)和食文化継承の人材育成等事業_実践事例集」(農林水産省)

今日からできる
医療の
エコ活動
その2

体を動かそう。

日本では、交通機関の発達や、仕事、
余暇の時間も座って過ごすなど
運動不足の人が増えています。

体を動かすことは、糖尿病、心疾患、
がんなど様々な病気のリスクを
減らすことができます。

心も明るく前向きになれるので、

無理なく続けられることから始めてみましょう。
スーパードまで歩いてみたり、

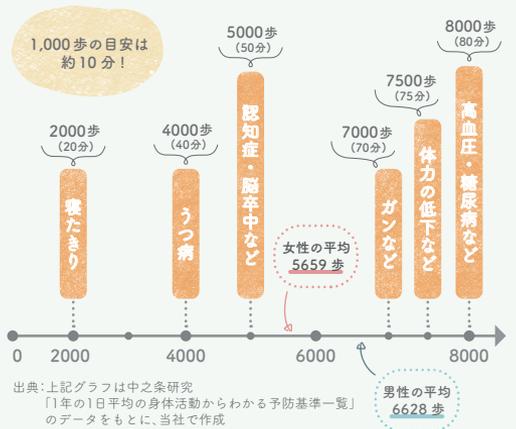
階段を利用したり、毎日の生活の中に

運動習慣を取り入れて

元気な体をつくりましょう。



1日何歩でどんな効果が期待できる？



20歳以上の日本人1日当たりの平均歩数は男性で6,628歩、女性5,659歩*。左の図を見ると、これより歩く時間を10~20分増やすことで、ガンや糖尿病などの病気の予防効果が期待できることがわかります。

*厚生労働省・令和5年「国民健康・栄養調査」

出典：上記グラフは中之条研究
「1年の1日平均の身体活動からわかる予防基準一覧」
のデータをもとに、当社で作成

●病気の発症には、食習慣や喫煙の有無など様々な要因が影響します。歩くことで確実に病気を予防できるわけではありません。



今日からできる

医療の
エコ活動

その3

早期発見・早期治療を
心がけよう。

元気な体を守るために
医療を活用することも考えてみましょう。

たとえば、定期的に検診を受ける

ことは健康であること

を確認できるだけではなく

病気の早期発見・早期治療にも

つながります。

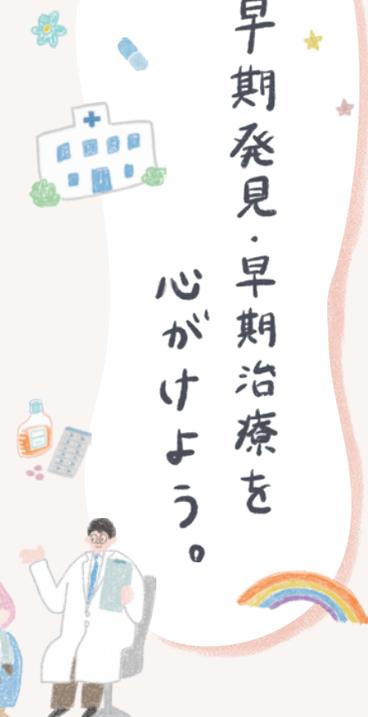
病院で処方された薬を決められた量きちんと
服用することも大切。

早期発見・早期治療は自分だけでなく

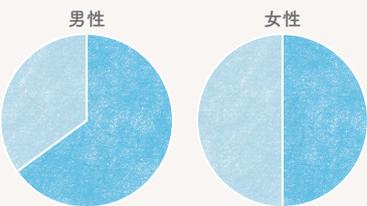
あなたのことを大切に想う周りの人

たちもハッピーにしてくれる。

重症化予防のために医療を活用し
元気な体を守ることは、限りある
医療資源を大切に使うことにも
つながります。



『がん』にかかる確率



生涯で『がん』
にかかる人は
約2人に1人

■ 生涯でがんにかかる確率

出典:上記グラフは、国立研究開発法人国立がん研究センター(2019)
がん情報サービス「最新がん統計」の記載をもとに、当社で作成

定期的に検診へ

医療のエコ活動マスタークイズ!

医療のエコ活動について振り返りながらクイズに挑戦してみましょう!

Q.1

海外ではつかえる新しいくすりが日本ではつかえないことを「ドラッグ・●●」という?

- A ドラッグ・ボス B ドラッグ・ロス C ドラッグ・リス

Q.2

新しい薬ができるまでに、どのくらい時間がかかる?

- A 約1年 B 約5年 C 約10年以上

Q.3

日本で希少疾患の影響を受けている人は、推定でどのくらい?

- A 約2000人に1人 B 約200人に1人 C 約20人に1人

Q.4

がんを発症する頻度はどのくらい?

- A 約2人に1人 B 約10人に1人 C 約50人に1人

Q.5

医療のエコ活動は何を大切に利用する活動でしょう?

- A 自然資源 B エネルギー資源 C 医療資源

全問正解・・・エコ活マスター!

3～4問正解・・・エコ活中級!

1～2問正解・・・エコ活初級!

楽しみながら医療のエコ活動に取り組んで、
みんなで日本の医療の未来を守りましょう!

※答えは次ページの右下にあります

未来の医療がどんなふうになってほしい??

あなたが欲しい夢の薬を考えてみよう!

薬のなまえ

どんなことができる薬?

薬の絵を描いてみよう!



医療資源をみんなで大切にするために

自分にできる医療のエコ活動を考えてみよう!

一人ひとりが防げる病気を防ぐために
医療のエコ活動その1・その2を参考に考えてみましょう!

私のアクションプラン

-
-
-
-

一人ひとりが適切に医療を利用するために
医療のエコ活動その3を参考に考えてみましょう!

私のアクションプラン

-
-
-

